

子どものいのちに 癌を持ち込み

日本共産党 2・3月議会

子どもの医療費補助制度

ママ・パパ怒る!



**全国に例のない
所得制限導入**

新年度予算案に提案された子どもの医療費補助制度の直しは、これまで未就学児（登達障がい児は小学2年まで）

のみ対象だった制度を、入院を中学3年生まで、通院を小学3年生まで拡大し、多くの子育て世帯の願いに応えるものとなりました。

ところが、通院の窓口負担に所得制限を導入し、現行の初診時500円を最大で4倍から6倍に負担を増やすことは見過せません。

本議会答弁で、新たに1万7千人の未就学児が負担増になる

ことがわかりました。その金額は1億8千万円です。さらに窓口負担に所得制限を設けていた政令市は「どこもない」という答弁に議場からどよめきが起きました。

大型事業にアクセル

一方、新年度予算の大きな特徴は、地方創生の名のもと「世界に誇れるまち広島」とともに「200万人広島都市構想」を進めようとしている点です。山口県の2市5町含む周辺23市町と連携協定を結び、中四国地方でローカル経済圏をつくり、交流、観光行政の中枢都市をすすめると言います。（4ページ参照）

照) その第一に、都市機能の充実・強化をかかげ、大型開発事業推進にアクセルを踏み込みました(表参照)。JR広島駅周辺開発に96億円を投入し、広島空港と広島駅を結ぶ総事業費1124億円の広島高速5号線の建設を進め、二葉山トンネル工事を着工しようとしています。さらに、アストラムラインを西広島駅まで延伸しようとしていますが総事業費は570億円。累積損失112億円、市への借入金323億円を抱える経営状況であり、全額税金で建設する計画です。中枢都市としての拠点性を高めるという理

子どもの医療費には 出し済り

市が策定した「人口ビジョン」においても、少子化を克服するために、切れ目のない子育て支援が掲げられているにもかかわらず、1億8千万円を出し渋り子どものいのちに格差を持ち込むことは認められません。不要・不急の二葉山トンネルの着工には148億円も簡単に増やせるのに、なぜ、子どものために出せないのでしょうか。いまこそ税

たな窓口負担を増やすことを当然とする付帯決議案に反対の立場を貫きました。

真の子育て支援をもとめ 論戦をリード

た見直しでは医療費補助の意味がない」との声が届きました。新設される1000円、1500円の負担上限額よりも窓口で支払う金額が下回るケースが半数以上にのぼるというのです。

党市議団は、こうした制度の不備を指摘し、来年1月の制度実施までに、現行の500円負担で年齢拡大ができるよう予算の確保をもとめました。

由をつけて、不要不急の事業をどんどん推進するやり方は止めるべきです。



第94号 2016年4月・5月
発行／日本共産党広島市会議員団
〒730-8586 広島市中区国泰寺町1丁目6-34(市議会内)
TEL 082(244)0844 FAX 082(244)1567
Eメール k-shigi@icp-hiro-shigi.jp

卷之二

帶決議案が複数出されました。

